

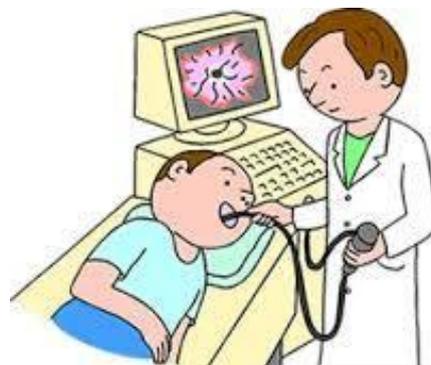
食道裂孔ヘルニアって？

医療法人 小金井中央病院
副理事長 田中 宏幸

はじめに

上部消化管内視鏡検査(胃カメラ)や上部消化管造影検査(バリウム検査)をすると食道裂孔ヘルニアと診断されることがあります。しかし食道裂孔ヘルニアと診断されても、健康診断や人間ドックでの結果では、「軽度異常はあるが病的ではない」という範疇に相当することが多いのです。

今回は、この病気について簡単に説明します。



食道裂孔って？

少し難しいことを書きますが、食事の通り道は、口腔→咽頭→食道→胃→十二指腸・・・と続いています。食道と胃の接合部の食道側には下部食道括約筋という筋肉があり、胃の内容物の逆流を防いでいます。

ヒトは横隔膜という隔壁で、胸腔と腹腔が分けられています。食道は横隔膜にある食道裂孔という穴を通して、胸部→腹部に存在しています。



どんな病気なの？

食道が通っているこの穴ですが、下部食道括約筋と横隔膜の協調的作用が上手く機能せず、本来腹部にある胃の一部が食道裂孔から胸部に飛び出してしまった状態を食道裂孔ヘルニアといいます。



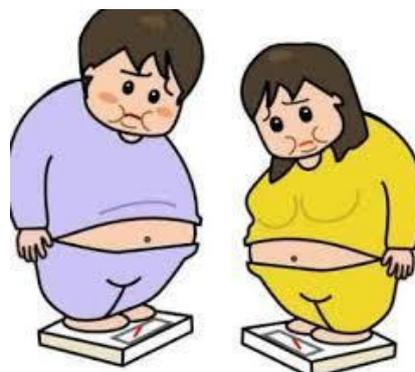
どんな人に多いの？

1. 高齢者に多い。
2. 肥満などでお腹の圧力が高くなっている人に多い。
3. 逆流性食道炎の患者に合併していることが多い。



どんな症状があるの？

食道裂孔ヘルニアだけでは自覚症状はないことが多いです。逆流性食道炎の合併で、胸焼けや胸痛、つかえ感などの症状がある人もいます。



どう治療するの？

食道裂孔ヘルニアの重度の人は外科的に修復手術をすることがありますが、ほとんどの人は軽度であり経過観察となります。

ここにあげたような症状があっても、ほとんどの方は胃の調子が悪いせいだ、とそのままにいませんか。

「胃が痛い」「なんだか胃がムカムカする」

「飲みすぎや食べすぎだろう」・・・、

そんな症状のある方、心配な方は一度外来受診を受けてみてはいかかでしょうか？



全身に効く貼り薬「経皮吸収型製剤」

医療法人 小金井中央病院
副薬局長 阿部 明子

貼り薬には全身に効く「経皮吸収型製剤」と貼った場所に効く「局所作用型」
があります。

貼り薬は皮膚に貼る薬です。正式には貼付剤（ちょうふざい）と言います。痛いところに貼る局所作用型のイメージが強いですが、貼った場所だけではなく、飲み薬と同じように全身に効くものもあるのです。



全身に効く貼り薬「経皮吸収型製剤」

薄い「テープ剤」で比較的小さいものが多いです。有効成分が皮膚の角質層を通過して、皮膚組織下の毛細血管に入り、全身に送り届けられ効果を発揮します。

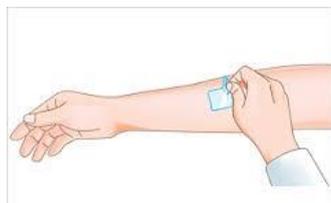
例えば…

- ・硝酸イソソルビドテープ、ニトログリセリンテープなど・・・冠動脈を拡げて心臓を楽にする。
- ・ツロブテロールテープ・・・気管支を拡げて呼吸を楽にする。
- ・リバスチグミン経皮吸収型製剤・・・認知症症状の進行を抑える。
- ・オキシブチニン塩酸塩経皮吸収型製剤・・・尿意切迫感や頻尿に効く。

他にもパーキンソン病、更年期障害、高血圧に効く貼り薬など多数開発されています。



良い面、注意する面
両方あります



経皮吸収型製剤の良いところ

- ・薬が飲めない時にも使える。
- ・長い時間効き続ける。
- ・中止するには剥がせば良い。



経皮吸収型製剤の注意するところ

- ・薬剤によって貼る場所や貼る回数が違う。
- ・肌にぴったり貼らないと十分に効かない。
- ・かぶれることがある。毎日貼るため、かぶれないように少しずつ貼る位置をずらすと良い。
- ・表面にアルミニウムが使われているものがある。



かゆい

AED（自動体外式除細動器）やMRI（核磁気共鳴画像法）を使うときは、電気で火傷をしないように予め剥がすこと。

病院で処方される薬はあなたの症状にぴったりあった、あなただけの薬です。どうぞ貼り薬もあなただけがお使いください。

薬について心配なこと、気になることがありましたら、お気軽に薬剤師にご相談ください。

